

エボラ研究開発からの教訓～国内開発の成果と課題～

国立保健医療科学院健康危機管理研究部 齋藤 智也

- 平時の研究リソース
 - 高度安全微生物実験施設(BSL-4)
 - フィールドでの臨床研究実施能力(ロジ・人員・研究資金)
 - 希少感染症に対する研究開発投資の維持
- “Science Preparedness”の重要性
 - 発生が希少な災害事象(新興・再興感染症、新型インフルエンザ、CBRNテロ等)に対する医薬品(または候補品)のヒトでの評価を非発生時に行うことは倫理的に極めて困難
 - 発生時の迅速な評価が極めて重要。
 - 発生してからでは間に合わない
 - 候補品の評価、プロトコルの事前作成、倫理委員会の承認、関係機関調整、スタッフの訓練、資金確保等は可能な限り事前に調整すべき。